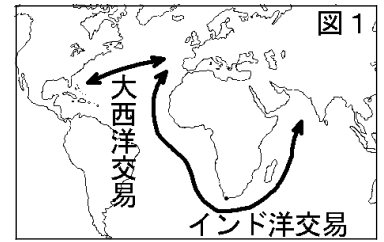


商業革命とは何か？

1) この分野の小論では「大航海時代の幕開きと同時に、西ヨーロッパを中心とした世界の一体化が始まった。」で書き始めるとよい場合が多い。

地中海交易は見る影もなく衰退し、大西洋交易と喜望峰を回るインド洋交易とが主流となった。喜望峰を回るのは、スエズ運河が存在しなかったからではなく、ペルシア湾、紅海をオスマン帝国が支配していたからである。大西洋にのぞむイベリア半島や大西洋沿岸の諸都市が国際商業の中心となった。16世紀のことである。

これを【1: 】という。広大な世界市場へのアクセスを得、それに向けた毛織物工業などが発達したことは、資本主義経済発展の前提をつくりだした。世界の一体化の帰結は、西ヨーロッパ諸国のための「世界分業システム」の確立である。



2) 特に次の①②③の都市は重要である。



①◀頻出▶【2: 】(図2) ポルトガルの首都  
香辛料取引で、スペインのセビリア、カディス、パロスと並んで16世紀に繁栄した。

②◀頻出▶【3: 】(図3) アントワープとも呼ぶ。

ベルギー北部の有力港湾都市。アントウェルペン大聖堂には、『フランダースの犬』にも出てくるルーベンスの祭壇画がある。16世紀前半よりスペイン領となり、アメリカ大陸への毛織物輸出で本国



のどの港より繁栄したが、オランダ独立戦争中の1585年、スペイン軍に破壊され衰退した。

③アムステルダム 17世紀以降①②に替わって繁栄した。北イタリアの諸都市に銀を供給していた南ドイツの諸都市の繁栄も失われた。

3) 西ヨーロッパは、貨幣経済の一層の浸透で、商工業が発展し活気ある経済活動の場となった。いわゆる「繁栄の16世紀」である。西ヨーロッパの産業では、特に【4: 】の発展がめざましかった。綿織物産業ではないので注意するように。

オスト・エルベでは

西ヨーロッパは商業革命で経済的先進地域となった。



- 1) エルベ川より東は、東ヨーロッパと呼ばれ、西ヨーロッパとは異なる役割を担うことになった。東ヨーロッパは、西ヨーロッパに穀物、原材料を供給し、西ヨーロッパから毛織物や奢侈品を輸入する地域とされた。こうした分業は、その後の東ヨーロッパの発展に大きな影響を与えた。
- 2) 領主が輸出用の穀物を確保するために、16世紀以降、プロイセン、ポーランドでは、いったんは半ば解放された農民に、再び農奴のような賦役労働を課すという時代遅れの搾取が行われた。これを【5: 】という。東ヨーロッパでは資本主義経済の発達は遅れ、商工業都市や市民層の成長が著しく遅れた。

3) エルベ川以东のプロイセン（東部ドイツ）において、ユンカーが再版農奴制で農民に課した賦役労働によって主に輸出用の穀物を大農場で生産する制度を【6: 】(グーツヘルシャフト) という。「エルベ川以东」は大学の講義などでは、しばしば「オスト・エルベ」と言う。

17世紀の危機

1) うって変わって、17世紀は、1620年代の経済不況とともに始まり約100年続いた「17世紀の全般的危機」の時代とされている。これには人口の減少や停滞、特に毛織物工業にみられた極度の生産縮小、それと並行した国際商業の不振などがあげられる。気候が寒冷化して農作物の不作が相次ぎ、再びペストなどの疫病が流行し、人口の増加は停止した。運悪く、たまたまこの時期に、アメリカ大陸の銀山が掘り尽くされ、銀の輸入も減少しはじめた。物価も停滞して、西ヨーロッパの多くの国は不況の状態となった。

2) このような危機を打開するため、各国の国王は、新税を課し、中央集権体制の強化をはかった。これは、貴族らの反発をまねき、農民一揆も起こり、混乱がつづいた。西ヨーロッパ諸国による商業圏の拡大は収束し、東ヨーロッパと西ヨーロッパの間の貿易も停滞した。危機は政治の面にも反映され、ポルトガル・スペインは財政破綻をきたし、貴族の反乱が起き、フランスではフロンドの乱、イギリスではピューリタン革命や名誉革命が起き、ドイツでは三十年戦争などが起きた。後に学ぶ17世紀の西ヨーロッパ史をこのような流れの中で捉えて欲しい。

この危機の原因は、小氷期の到来による気温の低下によって、ヨーロッパで小麦やぶどうなどの主力農産物が育たない地域が広がったことであるが、実は、16世紀の人口増加で、食糧や原料・燃料が不足したり高騰したことも大きかったのである。

3) この影響はアジアにも及び、加えて中国清朝初期の厳重な海禁政策、日本の鎖国政策も加わって、17世紀のアジアでも国

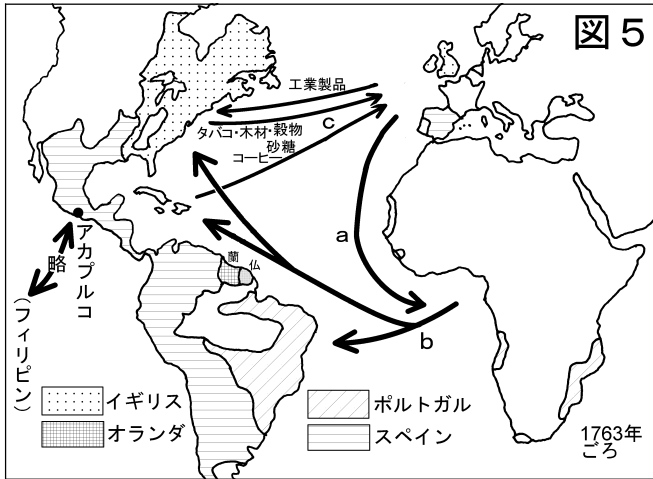
際商業が衰え、貿易依存度の高い国を衰退させた。

- 4) 17世紀半ばまで、ヨーロッパで唯一繁栄を誇ったのは【7: 】だった。3回のイギリス=オランダ戦争に敗れて、17世紀末には、イギリスに海上覇権を譲った。

### 三角貿易（大西洋三角貿易）

以下の記事は、標準的な教科書では、ずっと後に叙述されるが、18世紀の三角貿易の時代に確立していく「世界分業システム」は大航海時代に端を発しているもので、その帰結として、ここでまとめて述べておく。

- 1) アフリカ東海岸では、スワヒリ諸都市などを中心に、中世以来ムスリム商人が奴隷貿易を行っていたが、それはインド洋貿易の一部であり、黒人奴隷は数多い取り扱い商品の一つに過ぎなかった。
- 2) ところが16世紀に入ると、西インド諸島やラテンアメリカのスペイン植民地では、唯一の労働力であった先住民が、酷使と伝染病で激減し、先住民奴隷化禁止の命令まで出て、黒人奴隷を輸入するようになった。
- 3) さらに、18世紀には、西インド諸島ではサトウキビの、アメリカ大陸ではタバコ、綿花などの大農園でプランテーション経営が広範に行われ、ますます多数の黒人奴隷が必要とされた。そこで、以下のような貿易が行われた。



- 4) 左の図5において
- aは雑貨（日用品）や【8: 】であり、まずこれらを西ヨーロッパから西アフリカに運び、
  - bの【9: 】と交換する。
  - 【9】はカリブ海やアメリカ大陸で
  - cの砂糖・【10: 】・タバコ・コーヒーなどと交換する。
- このような貿易を【11: 】※1という。黒人奴隷は商品であるばかりか、砂糖やタバコ、綿花などを現地で生産し続けるためにも送り出し続けなければならなかった。これは、西ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカ大陸の経済を巻き込んだ、「巨大な分業システム」でもあることが分かるだろう。

※1 18世紀末から19世紀にかけて、イギリスが行ったインド・中国・イギリス間の貿易も三角貿易という。時期も一部重なっているから注意を要する。インド産アヘンを中国に密輸出、その対価で茶葉を買ってイギリスに、という流れで茶葉の輸入超過による貿易赤字を解消しようとした。

- 5) 【11】は、18世紀中頃に最盛期を迎え、19世紀初頭まで続き、運ばれた奴隷総数は1000万人～2000万人と推定され、アフリカ社会は疲弊した。「中間航路」の奴隷船内は悲惨で水不足や伝染病で航海中に約3分の1が死亡した。
- 6) 馬に乗った白人が黒人を追いかけて捕獲するというイメージは完全な誤りである。黒人を捕獲していたのは西アフリカの黒人王国である。部族社会の段階にあり、部族同志の戦争で捕虜にした対立部族の戦士を奴隷商人に売ったのが始まりかもしれないが、すぐに商品としての奴隷の捕獲自体を目的に戦争をするようになり、奴隷と武器を交換して、また戦争をした。No.52で詳述した。
- 7) 大西洋の奴隷貿易は16世紀にポルトガル、フランスなどが始め、スペインがほぼ独占した。18世紀に参入し、最も成功した奴隷商人は【12: 】であった。スペインはラテンアメリカに広大な植民地を持っていたが、アフリカ西海岸には拠点すら持っていなかったのが、奴隷商人と《黒人奴隷のアメリカ大陸スペイン領への輸送と販売を独占できる特権を与える契約》を結んでいた。これを【13: 】(奴隷供給契約)と言う。これは非常に利益が大きく争奪の対象となった。イギリスは、スペイン継承戦争 1701-13に勝利して、ユトレヒト条約(1713)でアシエントをスペインから得て、西アフリカの奴隷貿易をほぼ独占した。これは、イギリスで1807年に奴隷貿易が禁止されるまで続き、莫大な利益をイギリスにもたらした。イギリスの【14: 】港は奴隷貿易で繁栄し※、その莫大な利益はマンチェスターの豊かな人々に蓄えられ、その資本蓄積を前提として1760年代の【15: 】がおこるのである。

※ここはビートルズ結成の地。楽曲『ペニー・レイン』(Penny Lane 1967年)はジョン=レノンが住んでいた通りの名に由来するが、ペニーは名だたる奴隷商人である。

### 2005 慶應義塾大学

問3 ……新航路の開拓にともない新たな世界貿易の中心となった最も代表的な都市を以下の選択肢から3つ選び、その番号を、繁栄期を迎えた年代の早い順に、解答欄(35)～(37)にマークしなさい。

- 1 アムステルダム    2 アントワープ    3 ウィーン    4 ヴェネツィア    5 ナポリ  
6 バルセロナ    7 ハンブルク    8 リスボン    9 リューベック

正解 8→2→1

### 2007 東京学芸大学

B (c)18世紀、イギリスとフランスは、第2次英仏百年戦争ともいわれる激しい争いをヨーロッパ大陸と植民地で繰り広げた。……

問4 下線部(c)について、そのなかでイギリスが確立した大西洋の新たな貿易のネットワークの特徴について100字以内(句読点等を含む)で述べよ。 正解省略